



足 都 道 第254号
平成20年10月16日

国土交通省道路局長 様

足利市長 吉 谷 宗 夫



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付、国道企第37号で依頼のありました、標記の件については、下記のとおり回答いたしますので、よろしくご査収ください。

記

- | | |
|---------|-----------|
| 1 回 答 書 | 様式①～④のとおり |
| 2 部 数 | 各 1 部 |

- ・ 道路関係補助事業については、地方が主体的に計画・整備することを可能とするため、大胆に見直し・再編を行うこと。
- ・ 道路の建設から維持補修までの全ての事項について、国の支援を拡充すること。
- ・ 地方の人たちの要望は、道路整備に係わることが圧倒的に多いため、補助金の増額や財政力に応じた補助率の適用など、地域の特性を踏まえて、柔軟に対応すること。

○現状

- ① 幹線道路に渋滞が発生している。
- ② 生活道路の整備率が低い。
- ③ 維持管理が行き届いていない。
- ④ 北関東自動車道の開通が目前に迫っている。
- ⑤ 交通安全施設の未整備箇所が多い。
- ⑥ あんしん歩行エリア内の整備が不足している。
- ⑦ 市の中心部は、居住空間や店舗が減少している。

○課題

- ① 通行の円滑化と安全性確保のため、道路整備に併せた鉄道交差の立体化や橋りよの架け替えが必要である。
- ② 生活道路の新設・改良が必要である。
- ③ 安全な道路環境を維持するため、適切な維持補修が必要である。
- ④ 北関東自動車道へのアクセス道路の整備が必要である。
- ⑤ 交通弱者の安全な通行を確保するため、歩道等の整備が必要である。
- ⑥ 誰もが安心して快適に歩ける空間を確保する必要がある。
- ⑦ 中心市街地の整備や土地利用の転換を促進する必要がある。

『歴史と文化を育み、ひとが輝く都市(まち)、あしかが』

足利市は、古くは中世に学徒3千人を誇った足利学校のまち、室町幕府を開いた足利尊氏公の父祖のまち、また、近くは繊維のまちとして日本の歴史の中に、その確かな存在を示してきた。

この足利市固有の素晴らしい歴史的・文化的資源と精神を生かし、市民と行政との協働により、市民一人ひとりがいきいきと輝く、活気に満ちた「都市(まち)」を目指す。

「魅力あふれる住みよいまちづくり」(都市基盤)

足利の歴史や文化、豊かな自然など独自の地域資源を有効に活用し、個性と魅力ある足利にみぎをかけるとともに、環境と共生し活力あふれるまちをつくり、次代へ引継ぐため、安心安全な市民生活や活発な産業活動などの基礎となる、都市基盤を計画的に整備します。

- ① 幹線道路のネットワーク化を図りながら、道路整備・鉄道交差の立体化・橋りよの架け替えを促進する。
- ② 生活道路の新設・改良を進める。
- ③ 道路の適切な維持管理体制を強化する。
- ④ 北関東自動車道に関係する幹線道路は、交通の利便性や地域の特性を考慮し、景観に配慮した道路整備を行う。
- ⑤ 人と車の分離をはじめ、交通安全施設の整備充実に取り組む。
- ⑥ 誰もが安心して快適に歩ける空間の整備を進める。
- ⑦ 安全・安心で快適に暮らすことのできる、活気ある市街地への再生を進める。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④
栃木県足利市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	・ 大久保町87号線道路改良事業 ・ 鹿島橋山下線街路事業	本路線は、足利市の観光拠点である足利フラワーパークの主要なアクセス道路である。 この観光拠点に隣接して、もうひとつ足利市を代表する観光拠点である栗田美術館があるが、両拠点間には、JR両毛線があり、地域を分断している。そのため、両拠点間の交通は、大きく迂回しなければならない現状にある。 そこで、同線をアンダーパスで立体交差し、安全で快適な通行を確保するとともに、両拠点間を結び、観光客の移動の利便性を増進させ、もって地域の活性化を図るものである。 本路線は、市の西部、渡良瀬川に架かる鹿島橋から、市街地を東西に貫く県道桐生・岩舟線やJR両毛線と立体交差し、市道三重小俣通りを結ぶ、地域の南北交通軸として重要な役割を担う路線である。 市の西部地域においては、JR両毛線と立体交差する道路が少ないため、踏切へ交通が集中し、渋滞が発生するとともに、自動車、自転車、通学児童生徒らが、常に鉄道横断時の危険にさらされている状況にある。 そのため、地域住民からは一日も早く、安全で便利な通行の確保が求められており、早急に整備する必要がある。	
・少子・高齢社会に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成	・ グランド通り歩道改良事業	本路線は、JR両毛線足利駅から総合運動場を結ぶ路線で、「あんしん歩行エリア」及び近隣小学校の通学路にも指定されている。 また、駅を利用する多くの高校生等が通学に利用しているにもかかわらず、歩道は老朽化し段差・勾配があり、利用者が大変危険な状況にある。 このため、歩道をセミフラット化して段差・勾配を解消し、安全で快適な歩道空間の確保を図るものである。	